

令和2年第6回栗原市議会定例会 一般質問【個人質問】 通告表

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1	11番 高橋 渉	1 追加の経済対策を望む	<p>1 市は新型コロナウイルス感染症に関わる各種の支援策を次々に実施し、特に全世帯への一律1万円の商品券配布については、市民の高い評価を得ている。好評ではあったが、市民の声を拾ってみると、大型店での使用が多く見られ、地元商店への恩恵が十分であったのか疑問が残る。大型店での使用割合が多くなると、栗原市外へ資金が流出することになる。私は第2弾の支援策の一つとして、再度、商品券の配布を要望する。この商品券については地元商店に配慮したものにすべきであり、使う者と販売する者の両者にとって恩恵を感じられるものにすべきであろうし、この事業を行う場合は、大型店を除いて地元商店に特化する。そのことによって資金が市内に留まることになり、経済効果が期待できる。以上の観点から質問する。</p> <p>(1) 商店等応援商品券配布の支援策について、市民の反応はどうか。</p> <p>(2) 商品券の使用状況の分析をしているのか。</p> <p>(3) 追加第2弾として商品券の全世帯配布を提案するがどうか。</p> <p>(4) 追加の商品券を配布する場合、使用範囲を広くしてはどうか。例えば、朝市などでの使用、市内各地域のイベントでの使用、商品券の使用に特化したイベントの開催など。</p> <p>(5) 商品券以外で経済対策としての追加の支援策は検討しているのか。</p>
2	3番 澤邊 幸浩	1 障害児支援の提供体制の充実について	<p>1 栗原市障害者基本計画及び第1期障害児福祉計画において、障害者が住み慣れた地域の中で安心して生活を続けていくために、地域生活を支えるサービスのきめ細やかな提供が必要不可欠と示されている。このことから、以下の点について問う。</p> <p>(1) 第1期障害児福祉計画において、重度心身障害児を支援する児童発達支援及び放課後等デイサービスの確保は、国の基本指針による考え方として、平成32(2020)年度末までに、主に重度心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を少なくとも1カ所以上確保することを基本とするとあるが、現在の栗原市の進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 障害児支援の提供体制の充実の中で、医療的ケア児に対する協議の場設置と医療的ケア児を支援する地域づくりを推進する役割を担うコーディネーターの配置について、現在の状況を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 農業労働力確保の支援について	<p>1 農業従事者の高齢化が顕著な中で、深刻な農業労働力の人手不足を解消し、農業生産を維持して、援農・就農に繋がる市独自の支援対策が望まれると思うが、以下の点について問う。</p> <p>(1) 栗原市の大規模農家においても、農繁期における労働力の人材確保の困難さが浮き彫りになる中で、人材派遣料等や農作業委託料に係る賃金の助成金を検討すべきと思うが如何に。</p> <p>(2) 農業労働力確保には、他産業従事者や学生等の多様な人材確保に向けて、援農・就農するための人材募集、情報発信やマッチングに係る費用を地域のJAや農業経営体等に助成したり、農業機械の操作方法等の指導を行う研修機関に対しての研修費用を援助するような支援対策も必要と思われるが如何に。</p>
		3 土砂災害警戒区域等の指定について	<p>1 自然災害における河川の氾濫とともに、留意すべきは土砂災害であると思うが、昨今の異常気象における土砂災害について、以下の点を問う。</p> <p>(1) 市内においても県が指定する土砂災害警戒区域等があるが、警戒区域は急傾斜地の崩壊が懸念され、まさに警戒される対象である。しかし、近年においては、指定されていない周辺においても急傾斜地が崩壊し、土砂災害が発生している。近年の尋常ならざる異常気象による自然災害を鑑み、県が指定する土砂災害の警戒区域外においても、市において独自に危険箇所を調査確認し、今後の被害対策に生かすべきと思うが如何に。</p>
3	12番 三塚 東	1 民間の活力を生かせマインパークの運営	<p>1 開館当初、物産の館は民間の事業者などが経営した経緯はあったものの、細倉マインパークの運営は主に町が直接運営してきた。その後、合併によりリニューアルオープンし、管理・運営は現在に至っている。これからの運営方針について、提言を含め、5点にわたり市長の所信を聞く。</p> <p>(1) 現在、細倉マインパークの運営は、市の直営施設となっている。この方式はいつまで続けていく考えているのか。</p> <p>(2) 市が直接運営するのではなく、直営部門と民間に業務を委託する部門を分けて運営するべきではないか。(例えば、観光坑道と物産の館の分離)</p> <p>(3) 現行の市直営から民間への業務委託による計画を早期に打ち出すべきではないか。</p> <p>(4) スライダーパークを管理・運営するには、ロープウェイ(索道)の管理に必要な「安全統括管理者」を置くことが法律で義務付けられている。安全統括管理者の資格要件はどうなっているのか。また、人材の養成はどう計画されているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 せまられるデマ ンド交通の見直 し	<p>(5) その他、スライダーパークを管理・運営するために必要な資格要件と養成計画はどうなっているのか。</p> <p>1 市民バスの運行体系が見直され、令和元年度からデマンド交通が導入され、1年以上が経過した。特に、旧町村内を運行するデマンド交通の利用者が低迷している状況にある。政策の提言とともに、6問にわたり市長の所信を聞く。</p> <p>(1) デマンド交通の導入に向けた当初、市の試算では、導入後の年間利用者数は平成28年度に比べ約2万8,000人増の約8万5,000人と見込み、市の負担額は市民バス事業全体で、1,400万円増の2億2,200万円とした。運行開始から1年以上が経過したが、デマンド交通の利用者をどのような方法で予測し、実態はどうなっているのか。</p> <p>(2) デマンド交通を利用する高齢者から、金融機関の拠点を増やしてほしいとの声を聞く。医療機関などを対象にした拠点の追加のみならず、郵便局の拠点も追加すべきではないか。</p> <p>(3) 現在、運行しているデマンド交通を大幅に見直し、各地域の特性を生かした隣接地域を往来するデマンド交通の運行を可能にして、免許証を返納した利用者や高齢者の足として、気軽に利用できる運行体系にすべきではないか。</p> <p>(4) デマンド交通の拠点には、市内連携路線バスの停留所に指定されていたり、市内連携路線バス相互の乗り継ぎにも利用されている場所がある。地域内の住民自治組織などの管理による体制を整え、交通弱者といわれる利用者の立場に立ち、屋根付きの停留所の設置はできないか。</p> <p>(5) 市は組織を横断したプロジェクトチームを編成し、公共交通体系の基本的な考えをまとめ、高齢者や交通弱者の足の確保に向けた市の公共交通活性化協議会の開催を急ぐべきではないか。</p> <p>(6) 増加の一途をたどる高齢者や交通弱者の足を確保する施策として提言したい。現行の公共交通体系を維持しながら「福祉交通サービス」との観点に着眼し、健康寿命の延命にもつながるよう一定の条件を付けた「利用者証」を発行するなど、通院や買い物以外の各種イベントなどにも出掛けられるよう、タクシーを利用した場合の補助制度を創設し、タクシー事業の経営を圧迫することのないよう配慮した事業は考えられないか。</p>
4	8番 高橋 義雄	1 (仮称) 栗原東大橋整備事業の推進について	<p>1 栗原東大橋整備事業の進捗状況については、2月定例会で質問したが、その後の経過について伺う。</p> <p>2 具体的な整備メニューと事業内容及び整備スケジュールについて伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 市立3病院の運営について	<p>1 県地域医療構想推進支援事業検討報告書の提案内容について伺う。</p> <p>2 提案された機能再編案の内容について、どう受け止めているか。</p> <p>3 提案された報告書の内容を精査し、病院事業として3病院の機能再編案をまとめるとしているが、どのような協議・検討を行っているのか。</p> <p>4 市立3病院の具体的な機能再編案はどのような形で、いつ頃示せるのか。また、どのようにして市民の理解を得るつもりか。</p> <p>5 市立3病院を将来にわたって継続して経営していただきたいが、開設者としてどう考えているか。また、そのためには、何が必要と考えるか。</p> <p>6 公約として、小児科の充実や産婦人科の開設を掲げているが、このことにも継続して取り組んでいくつもりなのか。</p>
		3 栗原市まちづくりプラン（新市建設計画）の進捗について	<p>1 栗原市合併から15年が経過したが、栗原市まちづくりプラン（新市建設計画）重点プロジェクト事業はすべて終了したのか。残っている事業があるとするれば、いつまでに実施するのか伺う。</p>
5	19番 相馬勝義	1 市内企業の閉鎖による影響について	<p>1 先日、栗原市志波姫にある三共宮城製作所が10月をもって閉鎖するという報道があった。新型コロナウイルス感染症による世界的な景気低迷による受注減少が大きく影響したとのことであるが、誠にもって急な話であるとともに、地元に住んでいる我々は勿論のこと、最も動揺しているのは社員の方々である。そこで、3点について伺う。</p> <p>(1) 報道では、従業員には6月末に会社側から閉鎖を伝えたとあるが、千葉市長には閉鎖の話はいつ頃受けたのか伺う。</p> <p>(2) 従業員の殆どが地元採用と伺っており、会社側は退職者の再就職の斡旋を行うとしているが、その見通しはどうなっているのか。また、一度に大量の退職者が出てしまうことを踏まえて、再就職の支援が緊急的かつ迅速に対応すべき課題であり、市はどのように支援しているのか伺う。</p> <p>(3) 閉鎖する工場は、建物は勿論のこと敷地全般にわたり近代的かつ衛生的なつくりとなっており、工場閉鎖により活用されなくなれば誠にもったいないことである。市内企業の中には今後増設を検討している、あるいは検討する所があると思う。動きをタイムリーにつかみ、栗原市以外の地域に設備投資をもっていかなれないよう、跡地利用を見据えて各種誘致奨励金を積極的に活用し、千葉市長が先頭に立って活用する企業の誘致を実現することが重要であると思うが、見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 築館高校野球部 グラウンドにつ いて	1 栗原市発展の起爆剤にするためにも、市長懸案の「中核機能地域の整備」と「築館高校野球部グラウンド移転」を強力に推進していかなければと考える。まずは、野球部グラウンド予定地を早期に造成・整地して移転し、次に、グラウンドを含めた中核機能地域の整備を強力に推進することが必要と考える。移転による相乗効果として、築館高校の発展、旧築館町の活気回復、ひいては栗原市の発展が期待できるのではと考えるが、如何か。市長の見解と、昨年的一般質問後の県側との協議経過を伺う。
6	4番 佐藤千昭	1 (仮称)六角牧 場風力発電事業 について	1 大崎市鳴子温泉と花山地区にまたがる東北大学の六角牧場に、風力発電事業を計画していることを先の議員全員協議会で説明を受けた。事業の実施には多くの課題があると思われる。以下の点について事業者や関係者に要望するべきと考えるが、それぞれの要望内容について、市の考えを伺う。 (1) 建設は大型工事が予想される。1級河川長崎川上流で下流には小田ダムがある。濁流が流入しない工事の施工を要望する。市の考えを伺う。 (2) 施設の稼動に伴い、騒音及び超低周波音により地域住民に影響の出ない発電機の設置を望む。市の考えを伺う。 (3) 風車の影の影響が生じる可能性がある。状況によっては風力発電機の配置及び機種を検討すべきである。市の考えを伺う。 (4) 大型風車が林立する雄大な光景は、花山地区、栗原市の観光になると思う。新たな眺望点も検討すべきである。市の考えを伺う。 (5) 全国の風力発電所のメリット、デメリットを調査して対応すべきである。市の考えを伺う。 (6) この事業は施工中や完成して運転を開始してからも、問題点が出る可能性がある。市を含めた関係者の協議会を結成して、課題解決、事業の円滑な推進を図るべきである。市の考えを伺う。 (7) 上記の要望のほか、動物、植物、生態系及び景観等について、市でも事前に調査をすべきと考えるが、市の考えを伺う。
		2 イノシシの激増 を防ぐための対 応	1 数年前から、仙台近郊が北限と言われていたイノシシが、市内中山間地にも出没するようになった。旺盛な繁殖力もあり、年々増加傾向である。本年は特に中山間地域の広い範囲で水田に入り込み、寝転び稲を踏み倒したり、農道、水路、ため池を掘るなど頻発している。農作物被害は勿論のこと、仕事をする方も危険である。イノシシの激増を防ぐことが中山間地域の喫緊の課題である。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<ul style="list-style-type: none"> (1) 農家対象の外部の専門家の指導・助言や講演会、研修会の開催の必要性を感じるがどうか。 (2) 電気柵の設置数は増加している。全体的にみると広域的設置を望む箇所もある。今後の課題と思う。対応を聞く。 (3) 鳥獣被害対策実施隊の増員や若年隊員の確保、報酬等の待遇改善を望むがどうか。 (4) 捕獲後の処理に苦慮すると聞く。対応を聞きたい。
7	15番 佐藤 悟	1 雇用政策	<ul style="list-style-type: none"> 1 「三共宮城製作所」について。2020年7月10日、マスコミ紙上で今年10月末に閉鎖と報道された。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 誘致企業かどうか。 (2) 市への連絡、情報の把握はどうか。 (3) 閉鎖の要因は何か。 (4) 従業員の再就職・雇用確保、生活保障はどうか。 (5) 企業再建、継続、支援策はどう取り組まれたのか。 2 新規高等学校卒業者の就職支援について。コロナ禍の中で、短期間での厳しい就職活動である。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 新たな強力な就職支援活動が求められるが、どう取り組みを進めるのか。 3 会計年度任用職員について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) コロナ禍の市での「会計年度任用職員」の採用人数はどうか。
		2 教育政策	<ul style="list-style-type: none"> 1 市立小学校、中学校について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について。 <ul style="list-style-type: none"> ① 検温、マスク・手洗い、うがい、3密回避対策の取り組み状況。 (2) 教育カリキュラム等の進捗と対応方針について。 <ul style="list-style-type: none"> ① 授業の進捗状況。 ② 学校行事（運動会・学芸会・修学旅行）の実施状況。 ③ 定期健康診断・予防接種の実施状況。 ④ 冬休みの期間は短縮するのか。 (3) 教室・トイレ等の掃除や消毒で人手が足りないと聞くが、更に職員を増やすべきではないか。 2 不登校への支援について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度、令和元年度の不登校の児童・生徒数。 (2) 不登校の主な要因は何か。 (3) 「市けやき教室」「市子どもの心のケアハウス」について。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<ul style="list-style-type: none"> ① けやき教室の通所者数。 ② 在学青少年指導員数・補助員数。 ③ スーパーバイザー、学習サポーター、訪問指導員数。 ④ 学校への復学者数。 ⑤ 心のケアハウス事業の支援実績(令和2年度)。
		3 医療政策	<ul style="list-style-type: none"> 1 発熱外来診療体制について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 発熱、咳、倦怠など新型コロナウイルス感染症を心配する市民を優先的に診療するため、栗原医師会等の協力を得て、発熱外来診療体制を整備すべきと考えるがどうか。 2 「サーモグラフィー」の導入について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 市の管理施設における簡易に体温を測定できる「サーモグラフィー」の設置台数は、何台か。 (2) 計画的に設置台数を増やすべきと考えるがどうか。 3 新型コロナウイルス感染症指定病院（栗原中央病院）について。以下の点を伺う。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医師・看護師等、医療スタッフの配置人数。 (2) 入院患者数の実績。 (3) 重症者を受け入れられる体制は整っているのか。 (4) 医療従事者等、院内感染拡大防止対策はとられているか。 4 インフルエンザ予防接種について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 早めに予防接種を受けるよう啓発し、接種率を向上させるよう取り組むべきと考えるがどうか。
		4 生活支援・福祉政策	<ul style="list-style-type: none"> 1 「生活福祉資金（緊急小口資金）」「生活福祉資金（総合支援資金）」について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 申請件数。 (2) 融資件数。 (3) 融資総金額。 (4) 返済方法。 (5) 実施期間の再延長が必要である、どうか。 2 医療・介護・障がい福祉施設等に従事する職員等への慰労金支給について。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 「新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業」について。 <ul style="list-style-type: none"> ① 投薬は、「院外処方」として市街の薬局で処方されている。そこで働く薬剤師等は、対象者となるのかどうか。 (2) 栗原市立病院・診療所以外の市内の医療施設、介護施設、障がい福祉施設に従事する職員等への支給は行われるのかどうか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
8	13 番 沼 倉 猛	1 栗原保健所の支所化について	1 宮城県には現在、仙台市を除く地域に 7 保健所 2 支所が置かれ地域保健行政の要となっているが、県では 2021 年 4 月を目途に栗原保健所と登米保健所の支所化を検討している。以下の点について聞く。 (1) 県は栗原市と登米市に 3 月に検討状況などを説明したと言っている。支所化にする理由はどのような内容だったのか。 (2) 地域の保健行政、さらにコロナ禍対策などで保健所は重要な役割を果たしているが、規模の縮小につながる栗原保健所の支所化は納得できないものである。市長の見解を求める。
		2 小中学校でのコロナ禍による影響について	1 今年度の新たなスタート時期のコロナ禍による長期間の休校は、子どもたちにも保護者にも計り知れない影響を与えていると言われている。以下の点について何う。 (1) 現時点で昨年までの市内小中学校の通常の授業到達点と比較して、どう違っているか。 (2) コロナ禍のもとで子どもたちの不安や授業の遅れなどに対応するには、教室と授業時間と教員の増が必要と言われているが、栗原市の小中学校の対応はどうか。 (3) 国は第 2 次補正予算に加配教員の予算を盛り込んだが、栗原市は何名の加配になったのか。 (4) 全国市長会は少人数学級の実現を求める提言をしているが、その後国の動きはあるか。
		3 災害復旧について	1 気象変動により、時間雨量が 50 ミリを超える年間の回数がこれまでの 1.5 倍、80 ミリを超えるのが 1.8 倍と言われている。水害は同じ箇所が繰り返し被害に遭うことが多いが、以下の点について聞く。 (1) 市内で繰り返し水害を受けている箇所は、公共施設、個人所有それぞれ何カ所あるか。 (2) 昨年の台風 19 号による災害で、国の補助を受けて復旧したすべての箇所は何カ所か。 (3) 原型復旧したのは何カ所で、改良復旧した箇所は何カ所か。
9	1 番 佐 藤 庄 喜	1 米価 6 年ぶり下落により水稻農家への支援について	1 2020 年産米の水稻作柄概況は現在のところ 4 年ぶりとなる平年並と発表された。農家は豊作の情報と合わせ、2019 年産米の在庫量もあり、米価下落の引き金になるのではないかと危機感もあった。米の消費は毎年 10 万トン減少するが、今年はコロナ禍で外食自粛のため、在庫が更に多くなる懸念がある。9 月 4 日、JA 全農みやぎは 2020 年産米の JA 概算金を決定したが、6 年ぶりの引き下げである。この概算金は他業者のベース価格にもなるのではと思われる。以下について質問する。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 栗原市指定文化財における民俗芸能へ支援について	<p>(1) 令和元年分の3 学校給食センター、くりはら振興株式会社のエポカ 21・ホテルエポカ、株式会社ゆめぐりの延年閣・温湯山荘・ハイルザームの栗原産米の利用状況は、それぞれどれくらいなのか、数量ベースで伺う。</p> <p>(2) 人口減少、消費者の米離れ、コロナ禍による外食産業への販売苦戦もあり、今年度、主力品種のひとつめぼれ、ササニシキ、つや姫も2019 年産米より60 kg当たり700 円の減、だて正夢も900 円の減であり、水稻農家そのものも精神的にも疲弊状態である。そこで、畜産農家同様、水稻農家に対しても、市独自の支援策を講じていただけないか伺う。支援策があれば、担い手育成にもなるはずである。</p> <p>1 古くから伝統芸能は、人と人をつなぐ地域コミュニティの核とし重要な役割を果たしてきた。しかし、少子化による担い手不足、指導者の高齢化もあり、伝統芸能の活動も活発性に欠けているように思われる。文化財の民俗芸能について質問する。</p> <p>(1) 栗原市指定文化財に関し、栗原市文化財保護審議会があるが、構成内容、活動内容及び年何回の審議会を開催されるのか伺う。</p> <p>(2) 郷土芸能を次世代につなぐため、後継者の育成が急務な課題と聞いている。現在、郷土芸能を取り入れている学校は、何校あるのか。</p> <p>(3) 市指定文化財の中で、無形民俗文化財の民俗芸能は32 件ある。担い手不足、高齢化、コロナ禍による経済的理由で活動休止中の団体も存在しているのではないかと危惧している。活動されているのかどうかをどのような方法で把握しているのか伺う。</p> <p>(4) 栗原の無形民俗文化財の民俗芸能が未来永劫継承されていくため、担い手育成費等も含め、支援策を講じていただけないか伺う。</p>
10	7番 高橋勝男	1 コメ農家の持続化給付金申請に対する国・県・市の見解は	<p>1 コメ農家の持続化給付金申請が大きな問題になっているが、このことで市に対しても市民から問い合わせが来ていると聞く。国・県・市の見解を伺うものである。</p> <p>2 新聞報道によれば、制度を担当する中小企業庁は、申請時にコロナの影響による減収との宣誓を求めているとのことだが、その宣誓内容について伺う。</p> <p>3 持続化給付金は収入とみなされ課税の対象になるが、そのことによって影響を受ける税の範囲は。また、不正受給と判断された場合の対応はどうなるのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 コロナによる事業見直しへの影響と新たな支援策について	<p>1 令和2年度当初予算に計上した事業で、コロナによって中止になった主な事業及び予算総額はいくらか。また、予算組替えなど今後の対応は。</p> <p>2 栗原市に配分された新型コロナウイルス感染対応臨時交付金は、総額で13億9,936万8千円になるが、9月補正予算を含め、臨時交付金を財源とするコロナ対策事業総予算に対する現在の執行額及び執行率は。また、今後の見通しは。</p> <p>3 市内には277の製造事業者があるが、小規模又は家族内的な経営をやっている所では依然として厳しい状況が続いている。国の持続化給付金の前年比50%減のハードルは高く利用できない状況である。新たな支援策として、国の持続化給付金対象とならない市内製造業事業者等への支援として、市独自の持続化給付金事業を検討すべきでは。</p>
		3 栗原市病院事業再編計画について	<p>1 栗原市病院事業再編検討報告書の内容や栗原市立3病院の病床数適正化の進捗状況について、以下の点について質問する。</p> <p>(1) 市長は今年の2月議会でも3病院・4診療所の体制を堅持すると表明しているが、報告書では、栗駒病院の診療所化及び廃院、4診療所の体制や診療日数などの見直しが提起されている。改めて市長の見解を求める。</p> <p>(2) 8月24日・26日・27日に、各々3病院で個別協議が行われているが、現場の意見は如何に。</p> <p>(3) 報告書では、看護職員数等の見直しについては記載されているが、医師数については触れられていない。医師数については、現状の人数を想定しているのか。また、診療科目についても現状維持ということの良いのか。</p> <p>(4) 栗駒病院の場合は、急性期一般病棟を廃止し、療養病棟45床にするという案であるが、夜間当直医は不在になるのか。また、療養病棟入院患者に異変があった場合の対応はどうか。</p> <p>(5) 議会や市民への説明会を令和3年6月から9月にかけて実施する計画を立てているが、会議の内容は、一方的な説明に終わるのか。議会や市民の声を聞いて、再度検討するという事にはならないのか。</p>
		4 利用しやすいデマンド交通へ、運行エリアの一部、拡大見直しを	<p>1 2019年4月からスタートしたデマンド交通も1年半になろうとしているが、今年度は前年度と比べて会員数、利用者数の推移はどうか伺う。</p> <p>2 デマンド交通の市内全域運行は、県内及び全国的にも先進的な取り組みとして注目を集めた事業であった。より利用しやすいデマンド交通にするために、この間の評価と今後の課題について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>3 令和 3 年度からの契約見直しで、年間走行距離が前年比 27%と大幅に削減されている。このことによって運行ダイヤ数の見直しが発生するのか。また、年間運行経費は、今回の見直しによってどの程度の経費削減になるのか。市内連携路線・広域路線の運転士賃金や燃料油脂単価については、どう見直すのか。</p> <p>4 旧町村をまたがる運行については、病院や買い物など生活圏が一体となっている地域に限定すると共に、拠点についても、病院だけとか買い物だけとかに限定する形で、料金もデマンドの運賃 300 円と市内連携路線の運賃 100 円をプラスし 400 円とする方式など、本気になって検討する時期ではないか。</p>
		5 くりはら田園鉄道公園の指定管理について	<p>1 現在、くりはら田園鉄道公園を令和 3 年 4 月 1 日からの指定管理に向けて、指定管理者の募集、選定が進められているが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 指定管理の範囲は、くりでんミュージアム、若柳駅舎等動態保存施設、芝生広場となっている。動態保存施設の中に線路施設や踏切警報設備は含まれていないが、どう管理するのか。</p> <p>(2) くりはら田園鉄道公園を活用したまちづくりが必要と考えるが、市の考え及び指定管理者に望むものは何か伺う。</p> <p>(3) 指定管理者の募集が 9 月 4 日で締め切られているが、応募状況は如何に。今後、書類審査と合わせヒヤリング審査が予定されているが、指定管理者決定までのスケジュールは如何に。</p>
1 1	20 番 濁 沼 一 孝	1 水害対策について	<p>1 国土交通省は、現在、若柳・金成・栗駒地区で河川改修を実施している。河川が増水になった場合に一番障害になるのは、河川内の雑木であると思う。三迫川は昭和 22 年・23 年の台風で甚大な被害を受けた。堤防の低さも原因であるが、増水により雑木が橋桁に掛かり流れが止まり、堤防を破壊し、多くの田畑が流出した。その後、栗駒ダムが完成し、災害が防止されている。しかし今、河川を見ると、樹齢 50 年生位の雑木が河川を塞ぐように繁茂している。河川改修は下流域からということは理解できるが、雑木の撤去を早急を実施するよう、国・県に要望してほしいと思うが、見解を伺う。</p>
		2 野獣対策について	<p>1 今年例年になく熊、イノシシ、タヌキ、ハクビシンの被害が多く市民から寄せられている。特に中山間に多く被害が集中しているように見られ、水田の被害が多く、対策が求められる。以下、見解を伺う。</p> <p>(1) 今年のイノシシの被害状況を伺う。</p> <p>(2) 市においては電気柵の設置者に補助金を交付しているが、地区別に何件で金額はいくらか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			(3) 川崎町、七ヶ宿町、大和町のようにメッシュの金網を市の予算で設置してほしいと思うが、見解を伺う。
		3 市有財産の売買について	1 旧文字小学校、旧宝来小学校、旧萩野第二小学校の販売の看板が見られる。現在の進捗状況を伺う。 (1) 現在まで何件の相談があるか。 (2) 3件個々の販売代金はいくらか。 (3) 3件の販売代金は、地価公示価格で算出されているのか。 (4) 3件個々の管理状況はどうか。また、年間の管理費用はいくらか。 (5) 通常、市有地を購入する場合いろいろな手続きがあるようで、売買まで何年もかかるという話も仄聞するが、実際にはどのようなになっているか見解を求める。
1 2	17 番 菅 原 勇 喜	1 女川原発2号機再稼働に反対の意思表示を求める	1 広域避難計画を策定することは「重大事故が起きる」ことが前提となっているわけであり、女川原発2号機の再稼働を認めることは事故が起きることを納得し、被災することを認めることになる。栗原市は近距離であり、設置町と同様の当事者である。知事は市町村長に意見聴取する意向とのことであり、その際は市長にあつては、これまでの経緯を踏まえ栗原市民の命とくらしを守る立場から明快に、女川原発再稼働反対の意思表示を求めるがいかがか。 2 「原子力災害における住民の広域避難に関する協定書」と「広域避難計画」について。平成29年12月に石巻市、女川町とそれぞれ13条にわたる協定を首長間で締結している。以下について伺う。 (1) 「原子力災害時」「広域避難」についての協定であるが、女川原発におけるどのような原子力災害の発生を想定しているのか。 (2) 「広域避難計画」4 避難行動①PAZ圏内では、「異常事象の発生またはそのおそれがある場合に、国の避難決定に基づく避難指示があった時点で避難を開始する」とあるが、どのような異常事象の発生か。また、国の避難決定とあるが、どのような手順でどの機関が決定するのか。 (3) 「計画」4 避難行動②UPZ圏内では、「屋内退避を実施する指示等があったときは早期に屋内退避を行い、緊急時モニタリングによる環境中への放射性物質の実測値により、国の避難対象地域を示した避難指示の発令に基づき、避難を行う。」とある。放射性物質の実測値はいくらか。 (4) 「環境中への放射性物質の実測値」が避難しなければならないほどの数値を示したときは、30キロ圏内に隣接する栗原市民も当然避難しなければならないのでないか。栗原市民の避難計画を策定しなければならないのでないか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(5) 第 6 条の必要物資等について、必要物資の内容と量はいかほどで、どこに確保しておく計画か。 「必要物資が不足する場合、栗原市が対応可能な範囲で協力するものとする」とあるが、どのように対応するのか。</p> <p>(6) 第 7 条では広域避難における役割分担について、栗原市の活動内容 6 点（避難所受付ステーションの運営支援、駐車スペースの確保支援、避難所への誘導支援、避難所の開錠及び施設管理、必要物資の調達支援、避難所及び福祉避難所の運営支援）が定められている。6 点の支援を行う栗原市の人員はそれぞれ何人で、どの部署の職員が対応するのか。</p> <p>(7) 第 9 条では、「県及び栗原市の協力のもと福祉避難所を開設する」と明記されているが、どのように対応するのか。特に、病院、介護施設等の要援護者の避難は、具体的にどう対応されるのか。</p> <p>(8) 閉校した高清水中学校に女川町民が避難する計画であるが、どのように管理していく考えか。市はこれまで閉校施設は現状のまま管理し、壊れても修繕しないとの対応であったが、避難所となればいつでも使用できる状況にしておかなければならないと考えるが、どう対応していく考えか。</p> <p>(9) 女川原発事故に伴う環境中の放射性物質の実測値が、30 キロ圏内住民が避難しなければならない数値を示した場合、栗原市民が避難しなくてもよくて、栗原市が避難者の支援を行う事故とはどういう事故が想定されるか。栗原市民も避難しなければならない状況と考えるのが普通でないか。いかがか。その際は、石巻市民、女川町民の避難支援は全く行われない状況となるのでないか。</p> <p>(10) コロナ禍において、各避難所の避難人数は大幅に縮小されざるを得ないがどう対応されるか。46 施設の避難予定者は、コロナ禍対応を踏まえるとどのように変化すると推計しているか。対応しきれない避難者は、どこの施設で対応する予定か。</p> <p>(11) 第 11 条では平常時の活動として、平常時及び原子力災害時の連絡担当部局名および連絡先、乙に避難する行政区ごとの人口、広域避難をするための受け入れ施設の状況（改廃等の計画を含む）を「平常時から情報を共有する」と定めている。協定通り実施されているか。</p> <p>3 6 月 23 日、県内の住民運動 25 団体が連名で、女川原発重大事故時の緊急時対応（避難計画）に関わる公開質問状を内閣府と県に提出した。それぞれ 7 月 1 日付、2 日付で文書が送付されたとのことだが、その内容を承知しているか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 水害対策について	<p>1 国土交通省は7月9日、社会資本整備審議会の答申を公表した。答申は「気候変動を踏まえた水災害対策の在り方～あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換～」として取りまとめられ、「流域の関係者全員が協働して、対策を総合的かつ多層的に取り組む」とのことであるが、迫川、小山田川下流域は登米市、石巻市であり具体的にどのような「流域治水」の取り組みとなるのか。</p> <p>2 8月28日開催「仮屋排水機場・荒川・長沼ダム周辺施設の運用に関する意見交換会」の内容は「洪水時における内水対策について」で、荒川系列河川管理施設等操作手順、令和元年台風19号襲来時の河川水位状況や各水門、排水機場の時系列操作対応について説明に当たった県職員から最後に「現在県が行っているこれらの業務を地元土地改良区に引き受けてもらえないか」と打診された。栗原市は事前に県からそのような話があったのかどうか、明らかにされたい。引き続き、県が責任を持って対応するよう県に申し入れされたい。いかがか。</p> <p>3 荒川サイフォンの堆積土砂撤去と除塵機の設置について。昨年台風19号により照越川、荒川、熊谷川が決壊し大変な被害を被ったが、その後、迫川の水位が下がったものの荒川サイフォン上流部、伊豆沼の水位がなかなか下がらなかった。毎年1函の土砂撤去では流下能力の確保ができていないのではないか。調査のうえ土砂撤去函渠を増加するよう、県当局に働きかけられたい。また、流下ごみが函渠内に流入しないよう、除塵機の設置が効果的と考えるものである。これについても県当局に働きかけられたい。いかがか。</p>
13	25番 阿部 貞光	1 終末期医療と看取りについて	<p>1 高齢化社会の現在、終末期医療と看取りは、本人・家族にとって大きな課題である。在宅医療・介護の連携推進が制度化されているものの、自宅で療養する高齢者は、時には誤嚥性肺炎等を引き起こすことなどが度重なることがある状況にある。そこで、栗原中央病院と終末期医療について伺う。</p> <p>(1) 栗原中央病院は、終末期医療にどう関わりをもっているか伺う。</p> <p>(2) 自宅で看取りを希望する高齢者の場合、誤嚥性肺炎等を疑われる場合でも受け入れをしないのか伺う。</p> <p>(3) 栗原中央病院では、患者様を第一に考え、命を大切にす最善の医療を行い、地域に貢献するという理念がある。しかし一方で、患者に関わる看護師の中には実践されていないと思われる方もいる。患者第一とは考えにくいがか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(4) 退院の際にアンケートを渡されているが、どのような意見があり、どう改善されているか伺う。</p> <p>(5) 良質な医療の提供には看護職員の研修が必要だが、新人・ベテランを含め、研修実績と評価はどうか伺う。</p>
		<p>2 これでもいいのか 公民館建設</p>	<p>1 栗原市公民館整備基本構想では、1 地区 1 公民館とされている。現在、この構想により若柳公民館の建設が進められており、入札で建設工事と機械設備工事は調査基準価格を下回ったことから保留とされ、調査が実施されているものとする。また、9月4日の議員全員協議会では、志波姫公民館等の整備について説明を受けたところである。そこで次の点について伺う。</p> <p>(1) 1 地区 1 公民館として 5 地区が計画されているが、どのような方が利用できるか伺う。</p> <p>(2) 若柳公民館は、昭和 42 年に建設されている。当時の若柳町の人口は。また、現在の若柳地区の人口を伺う。</p> <p>(3) 若柳公民館実施設計は、6 月 30 日が納品期日(工期)とされているが、納品日はいつか。基本設計では示されていない各和室等の広さ等の説明がされていないが、なぜか伺う。また、敷地造成工事の内容も伺う。</p> <p>(4) 若柳総合支所には教育センターが設置され、館長を兼務する教育センター長が勤務している。また、広大な敷地があり建設場所として申し分ないとするが、なぜ候補地としなかったのか伺う。</p> <p>(5) 若柳公民館整備検討委員会の委員構成は、公民館、周辺の行政区長、公民館を主な活動場所とする団体の代表、学識経験者で、年齢は 67 才から 75 才までの方となっている。若者の意見が反映されていないと考えるが、なぜ若者を委員としなかったのか。また、志波姫公民館整備検討委員会の構成はどうか伺う。</p> <p>(6) 9 月 4 日に志波姫公民館等整備について説明を受けたが、体育センターを解体し、公民館機能に軽運動場として建設が行われる。面積はどの程度と想定するか。また、平屋建てとの設計だが、なぜか伺う。</p> <p>(7) 10 地区すべてに文部科学省が示す「公民館の設置及び運営に関する基準」に沿った公民館を建設してはどうか伺う。</p> <p>(8) 8 月 26 日入札が行われた若柳公民館の建設工事・電気設備工事・機械設備工事の調査基準価格、失格基準価格の設定は、それぞれどのように行われたか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
14	5番 佐藤 範 男	1 栗原市、3万人社会への挑戦	<p>1 市の人口は、合併時点から現在までの推移と、令和2年3月に改定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口推計によると、合併時の8万人超の人口が現在までの15年間で約6万5千人台へと減少、推計値では、この15年後の2035年には4万人台に、そのまた25年後の2060年には2万人台へ突入する。また、合併時には年間の出生数は優に500人を超えていたが、令和元年度には300人を数人超えた程度で、今年度中には200人台突入が必至の状況である。そこで、以下4項目について質問する。</p> <p>(1) 少子化・人口減少の顕在化は、社会全体が縮小再生産の時代に突入し、「右肩下がり」が常態化する。先細りする需要に対し、生産のバランスの妙が必要だ。当面、2060年を目標に、栗原市3万人台社会への軟着陸を目指し、年代別、産業別の、具体的な新事例の想定に学ぶ「(仮称)栗原市3万人社会への挑戦」を開催し、有識市民の意識を喚起すべきと考えるが、いかがか。</p> <p>(2) 一度低下した「出生率」を元に引き上げることは、不可能ではないものの、世界的にもその類例に乏しい。市の「創生総合戦略」に掲げる、「合計特殊出生率」の実績値1.50を、平易に、かつ無批判的に、「希望出生率」の1.80や「人口置換水準」の2.07に仮定し、そこから導き出された人口推計を基礎とした各種計画は、高度経済成長期の残滓をとどめるが如く、大きく信憑性に欠ける。早急に、実態を反映した計画に見直すべきであるが、いかがか。</p> <p>(3) 大前提として、行政区域の見直しは避けて通れない。合併前の旧町村を単位に、同数の施設を確保するなどの概念は、早い段階で解消すべきである。現在、地域組織活動の核となる自治会や地域防災組織の多くが、行政区単位に設立されている実態からして、行政区の平準化を企図した再編成が不可欠である。そのため、旧町村と現在の行政区の境界を有機的かつ大胆に撤廃し、再編成する視点と度量が肝要である。市長の認識を質す。</p> <p>(4) 出生数が今年度中に200人台に減少するとすれば、10年後程度を見据えた「小・中学校の第3次再編」は必要不可欠である。これまでの経緯と反省を踏まえ、十分な理解と堅牢な合意形成のため、早い段階からの取り組みが必要と考えるが、いかがか。</p>
15	16番 三浦 善 浩	1 コロナ禍から市民を守れ	<p>1 現在、新型コロナウイルスによる感染症は、世界中に広がり深刻な事態となっている。そこで、次の点について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 今年度の行事は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止などの観点から、中止や規模の大幅縮小となっていることが多い。令和3年の成人式は、どのように開催するのか。</p> <p>(2) 希望する市民を対象としたPCR検査の体制を作るべきではないか。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症とは、長い戦いが続きそして長く付き合っていくことが予想される。そこで、新型コロナの症状や感染防止策、感染が疑われる症状が出た時にどう対応すればいいかなどをまとめて、わかりやすく掲載した「(仮称)新型コロナウイルス感染症対策 栗原市民手帳」を作成し配布してはどうか。</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症対策からマスクを着用する機会が増えた今年の夏、同時に熱中症のリスクも高くなった。教育現場における熱中症予防の観点から、学校の体育館などにウォータークーラー(冷水器)を設置してはどうか。</p> <p>(5) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止などの観点から、防災無線を活用して、手洗い・うがいや咳エチケットの励行など注意喚起のアナウンスを新型コロナウイルスの感染が落ち着くまでの一定期間は毎日、あるいは少なくとも月水金の週に3回ぐらいはするべきではないか。</p>
		2 市民の人権を守れ	<p>1 全国的にインターネットなどで新型コロナウイルスに関する人権侵害が問題となっている。また、昨年の2月定例会の一般質問では、LGBTへの理解を深める市民への啓発を図るとしていた。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 新型コロナウイルスの感染は、誰にでも起こる可能性があり、感染者は非難される対象ではなく、守られるべき存在である。そこで、人権侵害防止の観点から栗原市宣言をしてはどうか。</p> <p>(2) その後、LGBTへの理解を深める市民への啓発は、進んでいるか。まずは、職員に対して性の多様性への理解を深める研修会の実施やハンドブックを配布して、市民に対するサービスの向上に努めてはどうか。いずれは、性の多様性を尊重する社会を推進するための条例制定も視野に検討してはどうか。</p>
16	24番 佐々木 嘉郎	1 大雨災害への対策は万全か	<p>1 ハザードマップの整備は大丈夫か。平成27年9月の関東・東北豪雨では、市内各地で大きな被害を受けた。また、昨年10月の台風19号による被害は、瀬峰や金成をはじめ大きなものがあつた。台風後、ハザードマップを活用しているか市内で聞いてみた。思った程には目を通していない人が多いと率直に感じた。そこで聞きたい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) ハザードマップの見方、活用の仕方を教えるべきではないか。</p> <p>(2) 新しい第3版の洪水・土砂災害ハザードマップの作成は、どうなっているか。</p> <p>(3) 住宅近くの崖崩れや、内水による災害、河川が合流する地点でのバックウォーター等の危険についても、マップに分かりやすく示してはどうか。</p> <p>(4) 本市では、1時間、24時間、48時間の最大雨量をどう想定しているか。数値で示してほしい。</p> <p>(5) 過去に浸水経験がある場所は、マップに記載してほしいが、どうか。</p> <p>(6) 定期的に専門家を呼んで、温暖化による降雨量の増大に伴う各種危険性について、講演会などを継続して行ってはどうか。</p> <p>2 壊れない堤防をつくるべきでは。どのような雨の降り方でも、堤防が決壊しなければ大災害には至らない。越流越水しても壊れない堤防をつくることだが、これからの河川管理上必要と考える。以下問う。</p> <p>(1) 大崎・登米両市と協議のうえ、壊れない堤防をつくる期成同盟を立ち上げ、国・県に連携して要望していくべきではないか。</p> <p>(2) 全国に1,460あるダムのうち、台風などでの大雨予想がある時、事前放流をしたことがあるのは3割のみという。国土交通省は、今後もっと多くのダムで取り組むと言っている。市内栗駒・荒砥沢・小田・花山ダム及び菅生・宿の沢ダムにおいても、大雨予想時にはダムの事前放流について国・県に要望すべきと考えるが、どうか。</p> <p>3 流域治水の取り組みは十分か。蕪栗沼遊水地と水害について。近年は雨の降り方が激しさを増しており、これまで5回、蕪栗沼、白鳥、第4分区、沼崎遊水地には越流堤から水が入り、下流部を守ってきた。しかし、瀬峰地区では多くの住民がその都度避難所生活をしてきた経緯がある。最大の面積をもつ野谷地遊水地は標高6.5メートルの上部に50センチのラバーゲートを整備しているため、一度も越流貯水による遊水地機能を果たすことはなかった。他の遊水地堤防と同じく、6.5メートルでの運用を国・県に要望して欲しいが、どうか。</p>
17	2番 小野久一	1 栗原市農業用揚水機場維持管理補助事業の継続・強化を	<p>1 市内で30アール区画以上の水田面積とその割合はいくらか。そのうち1ヘクタール以上の区画に整備された面積と割合はいくらで、市としての目標値は設定されているか。</p> <p>2 区画整備をしたくともできない中山間地水田農業の価値や市としての位置づけはどのようなものか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>3 小規模経営で農業機械を更新する時期になり、購入すれば赤字経営になるので委託先を探したが、水田条件が悪く誰にも受けてもらえないという事態は発生していないか。農地中間管理事業への申請件数と成立件数の推移を示せ。</p> <p>4 水田の条件が悪いという所は湿田、小区画で変形地、揚水ポンプでなければ水をかけられない等々があり、土地改良区費の他に揚水ポンプ設置費や修理費、電気料金などの負担がある。多種多様な機能と役割をもつ市の中山間地農業を守り発展させる意味においても、農業用揚水機場維持管理補助金の削減はしないで、増額・強化して行くべきでないか。</p> <p>5 6月定例会における沼倉議員の一般質問では、「制定時の目的であった農業生産の安定が図られつつあるから補助率を引き下げた」という答弁だったが、1俵20,000円以上していた米価が、現在は13,000円前後の安値安定である。農業生産の安定が図られているとは到底言えないのでないか。</p> <p>6 中山間地における農林業の活性化のために、地域おこし協力隊を活用して、市の特産物の発見・研究・開拓を試みてはどうか。</p>
		2 新型コロナウイルス対策は万全か	<p>1 新型コロナウイルス感染症の国内や県内における感染状況、感染者が出ていない栗原市の現状を見ての市長の所見を伺う。</p> <p>2 市民は、「市で1番目の感染者になりたくない」「高熱が出た時どう対処すべきか」「何日我慢したらいいか、味覚障害が出ないと受け付けないのか」「どこに電話したらいいのか」等々、多くの不安を抱えているのではないか。市民に、より具体的で手遅れにならない対処の仕方を広報されているか。</p> <p>3 栗原保健所との連携は万全か。対策会議は定期的にもたれているか。</p> <p>4 発熱外来は検討されたか。</p> <p>5 医療従事者や保育士、幼稚園・小・中学校教諭へのPCR検査(社会的検査)の実施を、県内自治体がまとまって国・県に要望していくべきでないか。</p> <p>6 保育士や幼稚園、小・中学校教諭は、新型コロナによって仕事の内容、仕事量に変化はないか。負担が増えているとすれば、解消策は考えられたか。精神的負担が重なり、悩みを抱えている人は出ていないか。</p>
		3 市民要望の実現を	<p>1 三迫川の岩ヶ崎大橋橋脚には氾濫注意と危険を表す黄色と赤色のラインが引かれているが、二迫川の鶯沢大橋には無い。度々起こる豪雨災害に備えるためにも必要と考えるが、県に要望すべきでないか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>2 舗装道路上への湧水は舗装を壊し、冬場は凍結し極めて危険である。速やかに補修すべきでないか。 (①市道三島・徳沢線の栗駒総合体育館への登り口、 ②広域線の桜田東有賀 ガソリンスタンド付近)</p>
18	14番 高橋 将	<p>1 みやぎ環境交付金事業を活用し環境に配慮したまちづくりへ</p> <p>2 ポイ捨てを防止せよ。市指定ゴミ袋のレジ袋に導入について</p>	<p>1 現在、栗原市では、みやぎ環境交付金事業として県がメニュー化した中から、LED道路照明灯交換事業、有害獣被害防護設備設置事業、省エネ機器導入支援事業の3つを選択し、事業化している。みやぎ環境交付金事業の枠には栗原市で既に実施している「メニュー選択型」とまだ未着手である「市町村提案型」がある。栗原市でもメニュー選択型に加え、市町村提案型に応募し、環境に配慮したまちづくりの施策をさらに充実すべきと考える。</p> <p>(1) 市町村提案型へ応募する考えはあるか。</p> <p>(2) 提案型として、学校へのエアコン導入に際し、断熱・気密改修の省エネルギー化の実証実験を行い、ランニングコストの削減と断熱効果の把握、今後の公共施設マネジメントに活かしてはどうか。</p> <p>(3) 現在実施中の省エネ機器導入支援事業で、高効率給湯器と木質ペレットストーブの2つに限定している理由は何か。</p> <p>1 2020年7月1日からスーパーやコンビニなどのレジ袋が有料化された。今では買い物客のマイバック持参が散見される。身近にある環境課題として、市の環境基本計画に、ポイ捨てへの取り組みが必要である旨のアンケート結果がある。市としてもポイ捨て防止への施策を発展させ、ポイ捨てのない地域になるよう、さらなる啓発が必要と考える。環境問題への啓発とポイ捨てへの防止対策、そして提案として、市指定ゴミ袋のレジ袋について何う。</p> <p>(1) 市内でのポイ捨てや不法投棄の現状について、把握されているか。</p> <p>(2) 防止に向けて、どのような取り組みを行なっているか。</p> <p>(3) ポイ捨て防止効果の見られた取り組みはあるか。</p> <p>(4) 他市ではポイ捨てした場合に過料するなど「ポイ捨て禁止条例」を制定する動きもあるが、栗原市で条例化の考えはあるか。</p> <p>(5) 有料レジ袋を扱う市内スーパーやコンビニなどに協力要請し、市指定ゴミ袋(新サイズ、新デザインのものを)を代用として使えるよう試験導入してはどうか。導入による効果として、市指定ゴミ袋購入の市民の経済的負担軽減、指定ゴミ袋取扱店となる市内小売店での購入を促す地域循環型経済としての効果、レジ袋に市指定ゴミ袋としての付加価値を持たせることで、ポイ捨て意識への軽減効果が見込めるものとする。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
19	18番 佐藤文男	1 「ナラ枯れ」被害対策を	<p>1 「ナラ枯れ」は「カシノナガキクイムシ」が媒介し樹木内に持ち込む「ナラ菌」という病原菌が木の中で繁殖することにより、通水が阻害されナラ類の木が枯れる樹木の病気である。最近、栗原の一部でも確認されるようになっている。「ナラ枯れ」が蔓延すれば、里山はもちろん、広葉樹林の栗駒山の紅葉の景色も一変してしまう。また、シイタケの原木の確保が困難になり、ドングリの減少によりクマがさらに里に出没するのではと危惧される。早急な対策が求められる観点から、以下の点についてどうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市内の森林面積において、民有林を含め広葉樹林の占める割合はいくらか。 (2) 市内において、いつごろからどの地区で「ナラ枯れ」が確認されるようになったか。 (3) 被害面積、被害額はどの程度とみているか。 (4) 駆除対策はどのような方法で何件程行ったか。 (5) 今後の駆除計画はどうか。 (6) 隣県との情報共有が必要と思うが、どうなっているか。
		2 抜本的なイノシシ被害対策を	<p>1 イノシシの被害が報告されてから久しいが、中山間地の農地にはほとんどの地域に被害が広がり、生息域はすでに岩手県に達していると言われている。対策が被害に追いつかず被害は益々拡大する一方であり、抜本的な対策が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 8月31日現在、イノシシは89頭を捕獲殺処分されているが、市内全体の生息頭数はおおよそ何頭と想定し、捕獲頭数は何パーセントにあたるか。 (2) 電気柵など被害防止のための補助金上限は、現在50,000円である。本格的な被害防止策を講じるには、上限額を引き上げるべきと思うがどうか。 (3) 捕獲は罠によるものが多いようだが、毎日のように罠の点検は大変な労力と思う。罠にかかった時に知らせる発信機などの導入はされているか。 (4) イノシシを捕獲した場合、1頭20,000円の捕獲謝礼だが、イノシシ捕獲を生業として取り組めるよう、1頭当たり50,000円に引き上げてはどうか。 (5) 市の(仮称)鳥獣被害対策課を設け、専門的な業務を行い、市民からの被害届などに敏速に対応すべきと思うが。 (6) 捕獲後の放射性物質の測定結果は、地域ごとにどのような傾向にあるか。ジビエ料理等には適さないのか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
20	10番 石川正運	1 米づくり農家に支援を	<p>1 米価が下落する可能性が高いと報道されている。近年の人口減少や消費者の米離れ等の要因で歯止めがかからない中、追い打ちをかけるような新型コロナウイルス感染症拡大による外食需要の落ち込み等が理由とされている。</p> <p>(1) 米価下落の要因の最大の理由は、新型コロナウイルス感染症が挙げられる。市内の米生産農家への支援を提案するがどうか。</p> <p>(2) これまで、畜産農家、園芸・野菜等の農業者支援策は講じてきた。米生産農家については講じられてはいないが、市内の令和2年産米JA予約俵数は、50万俵から55万俵と予想されている。報道されているように、1俵700円の下落となれば、市内の経済に与える影響をどう捉えているか伺う。</p>
		2 コロナ禍での生活保護申請の動向について	<p>1 新型コロナウイルス感染症の終わりが見通せない中で、申請に対する確な対応がされない事例もあるといわれているが、市の対応を伺う。</p> <p>(1) 解雇や雇い止めの実態はあるのか。あるとすれば、各々何件か。</p> <p>(2) そのことによる生活保護申請は何件か。生活保護世帯と人数はいくらか。</p> <p>(3) 生活保護の申請をさせないなど、いわゆる水際作戦といわれているものについて、その内容を理解しているか。市では無いと思うがどうか。</p> <p>(4) 申請が出された時、当事者に寄り添うことが大事と考えるが、市の姿勢を伺う。</p>
		3 伊豆沼、内沼、湖沼の環境整備を	<p>1 市の観光地の目玉の一つである伊豆沼、内沼の湖沼の環境の悪さが目立つ。水質の問題、大雨でハスが枯れたり、今年のはなまつりは花が少なく、残念なまつりではなかったかと思う。一方、来年への期待も大きいのではないか。そのためにも改善策を考えるべき時ではないだろうか。</p> <p>(1) 水質改善は、湖沼の一定の水量の確保と深さが重要である。現在の湖沼の深さはどうか。</p> <p>(2) ハスは、沼が浅すぎることで増水により水中で枯れる性質のものである。これらの改善策としては、浚渫するよう関係機関に働きかけるべきと考えるが、どうか。</p>
		4 築館高校グラウンド整備の現状を問う	<p>1 現在のグラウンドは校舎から遠く、三峰まで通つての時間のロスも多く、練習の時間も限られてしまう。そのためにも、一日も早いグラウンドの完成を目指す努力をし、県と共に汗をかくべきではないかと考えるが、現状を伺う。</p>

※ この要旨は、各議員から提出された通告書の要点をまとめたものです。